

第63回アブダクション研究会開催のご案内

アブダクション研究会

世話人 福永征夫

TEL & FAX 0774-65-5382

E-mail : jrfd117@ybb.ne.jp

第63回アブダクション研究会の開催について、下記の通りご案内を申し上げます。

(1) 第62回アブダクション研究会のご報告

7月19日に開かれた前回の第62回アブダクション研究会では、渡邊辰郎氏（東京大学）から『技術教育の過去・現在・未来への憂い』というテーマで、技術教育の危機的な状況について、重要で示唆に富む啓発的なお話を伺いました。渡邊辰郎氏は、現在までの科学技術や教育の行政が「科学技術」イコール「理科」という捉え方に傾き勝ちで、「科学技術」＝「理科大好き」となり、「技術大好き」や「ものづくり」の視点が抜け落ちているという基本的な問題点を挙げ、「技術教育」の古くからの歴史を辿りながら、「技術科教育」の時間数が著しく削減されるに立ち至った近年における事態の重大さを指摘した。そして、「技術を理解する力」という教育目的を達成するために、初等中等教育の段階での「ものづくりの体験」や「創造教育」を強化し充実させることの重要性を訴えた。

① 技術教育の重要性

[1]＝義務教育の中の技術教育が疎かになっている＝ 工夫創造の能力や実践的態度の育成など、人間形成の上でも大きな役割を果たしており、仕事に対する道徳観の育成、社会への奉仕にもつながる役割が期待されるところの、初等中等教育における「技術科教育」が崩壊の危機に陥っている。1958年度では中学校技術科の授業が3年間で315時間あったが、1998年度より175時間に減らされている。この少なくなった時間の中に「情報科」が入り、ますます、「技術科」本来の授業が少なくなっている。

[2]＝生きる上での役立ちや有用性を学ぶ場＝（中学生の状況だが）生活における、ものづくり経験の不足による基礎技能や生活技術の低下が認められる。一方、コンピュータで作られたおもちゃや機器の取り扱いに慣れ、便利で有効な道具として活用する力や技を備えている。生徒の問題として、画面を通じた情報伝達などのコンピュータ操作はできるが、ものづくりにおける工具や機械を取り扱う経験が不足している。そのため、人間として備えたい感性など情意面のバランスが崩れている。ものづくりなど、道具や工具を使って木材や金属などの素材を実践的、体験的に加工する学習活動は、生徒自身の五感の鋭さや自分を統制する力を育てている。今の時代にこそ、技術科のものづくり教育で道具や機械などを的確に取り扱う能力を育てる教育の実現を目指すべきと考える。技術教育の技能や技術の獲得は、生徒の成長にとっての人間形成、いわゆる運動感覚的に備わる能力であり、情意面にも影響し豊かな感性として育まれると推察される。技術科教育とは、生きる上での役立ちや有用性として、生徒にとって楽しい確かな学びとなって位置づけられ、実践されるものと考えられる。

[3]＝最適の解を創意工夫で具体的に導き出す能力＝ 科学技術には理科教育や技術教育が関わっている。理科は本質を追究し、理解することを目標にしている。技術は、それが必要とされる条件の下で最適な解を求め、

具現化を図ることを目標にしている。この最適と考えられる解を創意・工夫で具体的に導き出す能力は、ものをつくる過程だけでなく、世の中で生きていくためにも必須と考えられる重要な能力であり、このような能力を育てることが、技術教育の重要な目標のひとつでもある。

②『技術を理解する力』を育てるための教育目標とは

渡邊辰郎氏は、次の5項目を掲げている。1. ものづくりを体験すること（実際に加工を体験）、2. 過去から現在までの物のながれを知ること（技術の歴史）、3. 創造性を高めること、4. 発想法の訓練をすること、5. 相手に情報をうまく伝えること、

③ 世話人のコメント

[1]=人間のサステナブルな生存を支える技術の常なる進展と重層化= 人間の人工物としての技術の歴史は、新しい技術が古いものと結合して、技術的な新機軸を誕生させながら、狩猟採集、農耕、手工業、機械工業、情報、バイオ、ナノテク、へと新しい技術のステージが、古い技術のステージにかぶさり、重層化しながら、どのステージも、いつまでも、並行して進展してきている。

[2]=個人のサステナブルな生存を支える記憶の常なる進展と重層化= 人間の個体における記憶という知識の歴史も、新たに経験し学習した知識が、以前に経験し学習した知識に結合して、最新の知識のネットワークを形成し、新しい知識のネットワークが、以前の知識のネットワークに、次々にかぶさって、重層化しながら、いつまでも、並行して進展し、どの層も生存を支える歴史的な記憶情報として、活用され続ける。新たに経験し学習した知識が、以前に経験し学習した知識に結合して、最新の知識のネットワークを形成するプロセスは、新たに経験し学習した知識に基づいて、過去の経験や学習を再解釈するところの、成長のプロセスだと言える。再解釈によって、知識の新機軸が得られ、得られた知識の新機軸が、未来における更に新たな経験と学習の可能性を捕捉し、引き寄せて行く。

[3]=人間の三つの基礎能力= 1. 人間が社会環境に働きかけるための言語の能力、2. 物理環境に働きかけるための技能と技術の能力、3. 経験の豊かな先人や他者から、教えられたり、見聞きをしたり、先人の著作から学び取ったりして、言語の能力、および、技能と技術の能力を、自らに移転させる能力、の三つの能力は、人間が環境の変化に適応して、よりよく生き続けるために求められるところの、他の能力では代替できない基本の能力であり、人間活動の活力の根源である。それらは、人間の本性或生活の基本に属する第一次的な基礎能力であり、生活の実践において、不断に磨かれ鍛えられなければならない。三つの能力を土台にして、科学の能力・芸術の能力・哲学の能力などの文化的な能力が開花することになる。三つの基礎能力は、時代の変遷や時の条件を乗り越えながら、人間の生存をかけて、これを重視しなければならず、それらの不断の練磨と鍛錬に関して、社会的な手拔かりがあってはならない。

[4]=『技術を理解する力』を育てるための教育目標= 「技術を理解する力」を育てるための5項目の教育目標を実現するためには、[2. 過去から現在までの物のながれを知ること（技術の歴史）] を中核に据えて取り組むことが、すばらしい結果に繋がるのではないだろうか。「技術科」教育を新旧結合の人工物技術史と重ねて展開し、すべての技術ステージの実物の「ものづくり」を体験する実習を中心にして再構成することは、試みるに値する魅力的な挑戦テーマではないだろうか。新旧結合の技術史を肌身でなぞりながら、個体発生が系統発生を繰り返す形で、過去から現在までを実物で追体験することは、個人の能力発展にとって、極めて有意義で合理的だと思われる。

(2) 分科会・HPプロジェクト会議

<1>7月6日には、伊東 義高 委員長の『知の分科会』第八会合が、有楽町駅前の江崎事務所で開催されて、活発で意義深い論議が展開されましたことは、既に『伊東レポート』に述べられている通りです。

<2>7月21日に有楽町駅前の江崎事務所で開かれた、尾上 彰プロジェクト長の第三回HPプロジェクト会議の内容につきましては、8月12日に予定されている第四回の会議のご案内と共に、近々のうちに、プロジェクト長からレポートが出される予定です。

既存の領域的な知をベースにして、新たな領域的な知を探索し、それらを広域的な知に組み換えて、より高次の領域的な知を仮説設定的に創造することを目標に、アブダクション研究の飛躍を期して参りますので、各界、各分野の皆様のご積極的なご参加をお願いします。

記

◇ 日 時： 2008年9月13日（土） 13：00～17：00（例会）
17：30～19：30（懇親会）

◇ 場 所： 日本電気厚生年金基金会館 201号室（中山氏のお名前で申し込み）

東京都 世田谷区 代沢5丁目33-12 電話：03-3413-0111（代）

* 小田急線/京王・井の頭線 下北沢駅 下車 徒歩約8分

* 会場の地図は、グループメールのブリーフケース内「下北沢 NEC 厚生年金基金会館 MAP」に収載。
<http://groups.yahoo.co.jp/group/abduction/files/>

◇ テーマ： 研究発表 溝 尾 桂 子 氏（帝京大学）

『物語の歴史とアブダクション』

参考文献： U・エーコ著<池上嘉彦訳>「記号論Ⅰ」

（96・同時代ライブラリー・岩波書店）

特に<2.10 KFモデル>および<2.14 過剰コード化と過小コード化>の各章

◇ プログラム：

(1) 諸連絡		13：00～13：10
(2) 研究発表	PART [1]	13：10～14：25
	— 休 憩（5分）—	
	PART [2]	14：30～15：45
	— 休 憩（5分）—	
(3) 総合的な意見交換		15：50～16：50
(4) その他の連絡事項		16：50～17：00
(5) 懇親会（楽しく勉強になります。是非積極的にご参加ください）		17：20～19：30

第63回 アブダクション研究会（9/13）の出欠連絡

- * 9/8（月）までの返信にご協力下さい。ご連絡なしの当日出席も無論可ですが、会場や資料の準備の都合もありますので、できるだけ、ご協力くださるようお願いいたします。

FA X :
E-mail :

出席	出席
9/13（土）の例会に、未定ですが調整 します。	懇親会に、未定ですが調整 します。
欠 席	欠 席

☆ 出欠の連絡は、グループメールメニューの「投票」コーナーから行うこともできます。

<http://groups.yahoo.co.jp/group/abduction/polls>

- * 次々回第64回例会は、2008年11月15日（土）に開催いたします。
村上忠良氏に次のテーマでご発表をいただくことになっています。

『発明技術の価値評価のための村上モデルを構築する思考と行動のプロセスにおける
アブダクションを描き出す』（仮題）

大いに期待をいただき、奮ってご参加ください。

ご署名 _____

<定例アンケート調査>

もしご協力がいただければ、という趣旨であり、必須ではありません。

皆様のメッセージ集として他の会員にも伝達しますので、情報の交流に積極的に参画下さい。

- (1) 今、アブダクションの研究・実践と関連のある事項で特に興味をもって取り組んでおられること。
- (2) 研究会の議論の場を通して INTERSECTIONAL なアイデアや知見の INCUBATION が進んでおり、例会で発表したいと思っておられること。
- (3) これまで（第1回～第62回）の研究発表やなされた議論（「議事録」を参照下さい）に関して、さらに改めて質疑や意見を表明したいと考えておられること
- (4) アブダクションの観点から、注目すべき人・研究グループ・著書（古今東西不問）。
- (5) 細分化された「知」の再構築を図るという視点から、注目すべき人・研究グループ・著書（古今東西不問）。
- (6) 貴方ご自身がお考えになられている「知」の定義とは？
- (7) その他のご意見、ご要望、連絡事項など。

特に他学会・研究会での発表内容や発表論文等についても是非お知らせ下さい。

.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....